

第4分科会 コメント一覧

テーマ：河川の維持管理・更新、人材育成等における工夫事例（外来種対策を含む）

No.	発表題名	コメント	コメント	コメント	コメント	総評
1	荒川知水資料館（amo）を活用した学習支援の取組について	荒川知水資料館のみでなく、北区・子どもの水辺も活用し、実物の動植物と触れ合うことのできる学習支援や人材育成を実施しており、今後もぜひ継続していただきたい。	・継続的かつ学習支援の取組も拡大しながら実施しており、大変よい取組である。 ・河川のオープン化などさらなる利用拡大にも前向きに取り組んでいる。	・環境学習支援の利用者のニーズを的確に把握することによる継続性確保や運営費用面の課題に対して利益を生む施設の併設による持続性確保などの取り組みは他の参考になる。	学習支援プログラムや企画展などきめ細やかな活動に裏打ちされる累計150万人の来館者数は優れた実績である。社会実験やリノベーションによる更なる利活用が期待される。	情報発信拠点、地域住民との交流拠点のみでなく、小学校に学習支援プログラムを提供、受け入れ児童数もR6度だけで4000人以上、累計150万人来場は継続・深化させている証拠です、すばらしいと思います。「北区・子供の水辺」の活用、外来種に対する情報共有や啓発、アンケートをとりながら、より内容を充実させている点も評価できます。さらにかわまつづくり事業によりリノベーションやカフェ施設も予定されており、今後の展開も楽しみです。ここで環境教育をうけた子供たちはきっと川に関心をもってくれると思います。これをきっかけに国土交通省に入省してくれるといいですね。
2	持続可能な多自然川づくりに向けた人づくりの取組み	宮崎県の事例を参考に現地実技型の勉強会を開催し、関係者が現地に入り実際に整備し、加えて経過についても参加者に共有するサイクルについてさらに全国の河川で情報が共有されることを望みます。	・地域住民の意見を聞きながら河川環境整備を行うことにより、持続可能な取組かつ地域から愛される環境づくりが出来ており大変良い取組である。 ・学びの場を設けるなど、他の事業等への横展開も図られている。	・良好な河川環境の創出に必要な技術者と事業費の不足はどの自治体でも課題であり、それらを河川管理者が産・学・民を巻き込み楽しみながら実践する中で解決しており、先進的な取り組みとして全国に展開すべき事例である。	現場状況を踏まえ、地域住民を含めて意見交換を行い、具体的な河川改修に落とし込んでいる。また、多様な主体が川づくり勉強会に参加しており、整備後の経過を共有するなど良く工夫が凝らされている。	自然の水辺復活プロジェクトとして、H13より、自然工法研究会、自然工法管理士認定制度、自然共生工法の開発・評価などを実施しながら、協働、人づくり、ものづくり、現地での実践を進め、先駆的なしくみをつくり実践しています。この岐阜県の取り組みは、他県もモデルとすべきしくみであると思います。自然工法管理士認定制度も画期的だと思います。また、川づくり勉強会には河川課のみでなく、道路課など多くのセクションの職員、コンサル、学生、住民が参加し、技術者のみでなく、業者や住民なども参加するやり方は、川づくりだけでなく、いろいろな共創、連携をうむなど、今後大きく展開していくと思います。
3	紫川水系における豊かな川づくり～誰でもできる多自然川づくりを目指して～	紫川水系豊かな川づくりマニュアルは写真、図が多く、環境対策が分かりやすく解説されているので、差支えない範囲でマニュアルをぜひ公開していただきたい。	・マニュアルや運用ルールの策定は、他事業にもつながる良い取組であった。	・河川環境に関する情報の共有と多自然川づくりへの理解度向上を目的として、マニュアルやチェックシートを作成し、それらの作成にあたって解りやすさや実用性に配慮し業務の中に取り込む工夫をするなど、他の参考となるとりくみを行っている。	環境対策のノウハウが引き継がれるよう仕組み化されており、設定した課題への的確な対応である。	行政の担当がかわることは、それまでの情報を継続し、施工まで反映できないため大きな課題だと思います。それを解決するための「紫川水系豊かな川づくりマニュアル」をオリジナルで作成し、チェックシートの作成や、設計から着工まで、各段階でチェックするしくみをつくり、実践しています。今回はこの仕組みによる成功事例をぜひお聞かせいただきたい。また、他河川へも展開してほしい。期待しています。
4	鳥獣被害対策のための河川内伐木について	異なる部局で連携した河川内緩衝帯整備の例として全国の河川で情報が共有されることを望みます。一方で、大規模な河川内の環境変化にもなるので、有害鳥獣以外の種への影響についても引き続きモニタリングされることを期待します。	・治水上の支障やその他の環境も考慮した対策になるような、さらなる対策検討に期待します。	・イノシシによる河川管理施設の被害と豚熱感染被害拡大を防止するため、県の河川管理部署が農政部局と調整し効果的な場所で河川維持管理行為として対策を実施することで、被害に悩む市町村を支援することにも繋がっており、他の自治体の参考となる取り組みを行っている。	河川内緩衝帯整備の効果について、定量的な分析ができておりタイムリーな知見である。	クマによる河川内移動も課題になっているため、丁寧にモニタリングもおこなっている本事例はたいへん参考になる事例となると思われます。課題でも示されていたように、自然環境や生態系に配慮した整備を示されていた点はやはり重要な課題であると思います。今後、両立させた事例について期待しています。
5	貯留機能保全区域における環境整備	貯留機能保全区域における生物モニタリングの実施は流域の環境の状況を把握する上で重要であり、他の貯留機能保全区域についても実施されるとよりよいかと思えます。	・貯水機能保全区域の目指すべき環境や現状の問題点をもう少し明確にした方がよいと思いました。	・特定都市河川の流域治水の取り組みとして実施する貯留機能保全区域の維持管理と自然環境の保全への対応として、河川協力団体と共同した先進的な取り組みであり、今後、同様の河川で流域治水を展開する上で参考になる。	貯留機能保全区域における環境整備について、体制構築も含めて、有用な知見である。	貯留機能保全区域において、大和川らしい多様瀬な生物の生息生育場の保全再生を山と川支援再生計画中の施策に位置付けて、具体的なメニューが示されている点はたいへんすばらしいと思います。今後の治水効果や整備の効果についても期待しています。
6	気候変動に伴う琵琶湖水位等への影響に関する一考察	今後も環境要因やデータを収集し引き続き解析を実施されることを期待します。全層循環の有無と下流供給水の水質の関係（11月～4月）についてですが、水質の中で最も影響がある項目は何だったのでしょうか。	・水量によりどのような環境に影響するのか不明確であった。また環境目標も不明確。	・気候変動に伴う影響を把握するため積雪量、降水量、全層循環についてデータ分析を行い濁水発生状況や水質に対する影響を評価した取り組みであり、今後も琵琶湖の環境影響因子を整理し継続してデータ収集と解析を行うことが望まれる。	気象や水質等のデータについてよく分析されているので、環境との関連性についても踏み込めると良い。	気候変動に伴う琵琶湖水位への影響について詳細に分析しています。今後は、水辺植物など動植物への影響についても評価し、それが保全できる管理についても、県や専門家、住民などと議論していただくことを期待します。
7	宍道湖西岸におけるナガエツルノゲイトウの対策状況報告	ナガエツルノゲイトウについては淀川をはじめ全国で駆除方法の検討がなされています。先行事例についても参考にされるとよりよいと思います。	・現状や駆除の方法等は明記されていたが、原因や対策を決めた理由が不明瞭であった。もう少し根拠や効果等を明確にした方が良かった。	・ナガエツルノゲイトウの駆除方法と廃棄処分量削減方法の実証を伴う比較検証を行い最適方法を抽出しており、同じ課題をもつ河川等の参考になる。今後、駆除の実務に適用していくためには、土シート（材料品質）、平置き条件（積み上げ方法）、大型土嚢の性能（材料品質）などの条件をとりまとめておくことと良い。	ナガエツルノゲイトウの廃棄処分（運搬）量削減に向けて乾燥が重要であることを示しており、他地域にとっても参考となる。先行研究のレビューがあるとなお良い。	全国的に拡大しているナガエツルノゲイトウについて廃棄処分量削減の低減も含め検討されています。宍道湖の分布は図からみる限り西側に現時点ではかぎられていますので、今のうちに徹底的に駆除することが重要です。宍道湖での拡大、周辺地域への拡大を阻止できるよう、重点策をとっていただくことを望みます。